

水稲



農作業メモ



水稲

田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

○田植え

早い地区では、3月下旬より田植えが始まります。苗は、田植えの5日前位から育苗ハウスのサイドビニールを下げて、外気に充分ならしましょう。(遅霜の場合は注意して下さい。)

- ①田植えの適期は4月5日から15日頃です。
- ②植え付け本数は、坪当たり55～60株程度、1株の苗数は3～5本が標準となります。苗数が多くなると過繁茂の原因となり、倒伏や病害虫が発生しやすくなりますので注意しましょう。田植機の整備・調整は事前に必ず行って下さい。
- ③植え付けの深さは活着や分けつ等に大きく影響しますので、2～3cmを目安としましょう。

○水管理

暖かい日中は浅水にしますが、活着するまでは朝晩冷え込むことがありますので、新しい根が出るまでは深水にしましょう。活着後は浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつの促進に努めて下さい。

○病害虫・雑草等対策

初期では、イネミズゴケムシや葉いもち病が防除の中心となります。田植え前に必ず箱施肥(ブーン・パディート箱処理剤)

を散布し、むらがないように施用しましょう。1箱当たりの散布量は50gとなります。※除草剤と間違えて散布しないよう注意して下さい。

移植後の活着を促進する為に、活着肥としての硫安(7kg/10a)の散布を行って下さい。

尚、作業省力の為にJAでは「ハイパーCDU」の使用も可能です。この場合は、田植時の箱苗に100gをむらなく散布して下さい。

令和5年産より、除草剤を(プライオリティ剤)へ変更しています。田植え後5日から15日に散布し、その後は湛水状態を5日程度保って下さい。水の掛け流しや、土の表面が見えるような場合は、除草の効果が落ちますので注意して下さい。尚、藻類対策として(モゲトン粒剤)又は、中後期雑草対策の除草剤第2回目(アトトリ粒剤)のどちらか一方の除草剤を使用する事を可能としています。

箱施肥や除草剤の使用方法は、早期水稲耕種基準に記載しています。

※浅水状態で土の表面が見える水田は、荒起こし等で土の移動を行い均平にしましょう。

野菜



購入苗の上手な見分け方、使い方



野菜

小林 優介
下島農指導センター
080-1729-1635

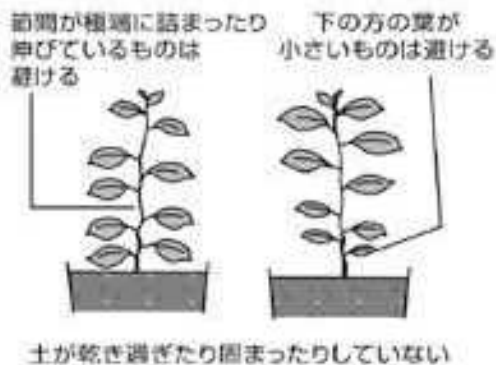
春の園芸シーズンに入ると多くの野菜苗が売られます。一般的に果菜類は高温好みで育苗に長い日数がかかり管理も難しいものです。春植えの家庭菜園では、購入苗で栽培を行う事をお勧めします。

多くの収穫を得る為にも、良い苗をいかに見極めるかという事が重要です。

ポイントは、下記の図のように『葉の大きさ』『葉色と厚さ』『茎の伸び具合』『つぼみの付き具合』『病害がない事』などです。

接ぎ木苗では接合部がきれいに合って、傷口が癒えているか確かめましょう。ウリ類では双葉がしっかりとついている事も重要です。

また、小苗しか手に入らない場合は、購入してからひと回り大きな鉢に移し替え管理を十分に行い大苗に仕上げ、十分に暖かくなった畑に植付けましょう。





3月、4月の柑橘園管理

果樹
白石 一斗
下島営農指導センター
080-1729-1633

1. 病害虫防除

対象病害虫	品種	農薬名	希釈 倍数	散布液量 (100ℓの場合)	備 考
かいよう病	温州 中晩柑	IC ボルドー 66D	60 倍	1,666 g (mℓ)	発芽前
ミカンハダニ	中晩柑	ハーベストオイル	80 倍	1,250 g (mℓ)	発芽前
そうか病	温州	デランフロアブル	1,000倍	100mℓ	4月上旬 (発芽3mm頃)
かいよう病	中晩柑	コサイド3000 加用 クレフノン	2,000倍 200倍	50g 500g	開花前 (かいよう病の発生が心配される園)
訪花害虫	全品種	モスピランSL液剤	4,000倍	25mℓ	開花期

※かいよう病防除はムッシュゴールド (DF) 500倍も使用可。(散布液量100ℓの場合200g)

※温州ミカンで12月にハーベストオイルを散布していない園では、発芽前に80倍で散布。

※そうか病対策でフロンサイド(SC) 2,000倍も使用可。

2. 施 肥

栽培タイプ	肥料名	品種名	施肥時期	10 a当たり
省カタイプ	新アグリロング 28 号	河内晩柑・清見・甘夏・パール柑	3月上旬	5袋
		デコボン		5袋
通常タイプ	果樹専用スペシャル	デコボン	4月上旬	5袋
		河内晩柑・清見・甘夏・パール柑		4袋
		ポンカン		8袋
		極早生	4月中旬	6袋
		早生・中熟・普通		8袋

3. 葉面散布

まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進を行きましょう。

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
樹勢回復	尿素又はアミノジューシー N14 又は神協スピリッツ	500倍	いずれかを使用ください
花芽分化促進	ファームメント 又はジューシーエース	500倍	いずれかを使用ください
緑化促進	葉面マグ	200倍	



トンネル被覆によるトルコギキョウの 省エネルギー栽培について

花 卉
竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

トルコギキョウの栽培は8月～9月に定植を行う2度切り栽培が主体ですが、11月以降に定植する作型で、定植後の生育初期に内張りトンネルを利用し、多層被覆(外張り+内張りカーテン+トンネル)による省エネルギー栽培技術が近年確立してきましたので紹介します。

①定植

トンネル被覆による栽培の定植時期は夜間の最低気温が10℃くらいに低下してくる10月下旬以降が目安になります。これより早いと高夜温と日長の影響で徒長しやすくなります。黒マルチを利用して、地温確保に努めます。

②トンネル被覆

定植後10日～14日後に活着してからトンネル被覆します。(写真1)無換気で蒸し込むことにより、花芽分化を誘導します。この時、トンネル内に十分水滴がついているように時折かん水します。トンネル被覆前に害虫防除のため農薬散布を行います。

定植後、40日程度経ってからトンネルを外し、25℃を目安と



写真1 内張り+トンネル被覆



写真2 葉先枯れに注意!

した昼温管理に切り替え、節間伸長を押さえて葉先枯れを予防します。(写真2)

③加温開始

トンネルを取り外した後は、夜温の設定温度を8℃～10℃を目安に加温を開始します。この時、地温10℃以上を保つことが大切です。花芽分化をさせた後は、ゆっくりと草丈を伸ばし、茎の硬くしまった品質に仕上げます。また、この頃から発蕾が始まりますので、無駄に夜温をあげない方が、プラスチックの防止にもつながります。

④収穫

開花は次第に日の長くなる4月以降になります。この時期の最低気温はまだ10℃前後に推移しますので、夜温15℃に加温し、開花遅延、花しみの抑制と品質向上に努めます。

省エネルギー栽培の作型表(4～5月出し)

月	10	11	12	1	2	3	4	5
4月	定植 → 花芽分化 →		発蕾		→ 収穫			
	日中蒸し込み・無加温		8～10℃加温		15℃加温			
5月	定植 → 花芽分化 →		発蕾		→ 収穫			
	日中蒸し込み・無加温		8～10℃加温		15℃加温			